

事業名	令和2年度 和田地区歴史民俗資料展「和田口伝の機織り～女性活躍社会に向けて～」						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育〈展示事業〉	・	団体育成
日程	令和2年11月～12月	講師	・手織りの仲間さくら ・和田はたおり保存会	参加費	入場無料		
対象者	一般	参加者数 (延べ)	443名	募集方法	ポスター、チラシ、広報紙、 公民館だより、HP等		
趣旨	和田口伝の機織りの歴史を辿る事で、農業地域における女性の果たしてきた役割りや実績を振り返り、伝統工芸の素晴らしさを改めて確認し、これからの社会における女性の活躍を支援する展示とする。						
内容	①口伝集による「さくら織り」展示 ②機織りの歴史展示 ③女性活躍社会に係る展示、アンケート						
工夫	①国立歴史民俗博物館企画展示に合わせて 「性差（ジェンダー）の日本史」〈令和2年10月～12月〉において、和田公民館所蔵の「手織りの仲間さくら」製作はたおり作品が展示される事に合わせて、関連展示とし歴博の展示と整合の取れるものとしている。 ②開館20周年記念展示 和田ふるさと館歴史民俗資料室の開館20周年記念として、実施。 ③新型コロナウイルス感染症対策 資料室各所に手指消毒剤を設置、アンケート記入においても十分留意して頂くよう努めた。						
成果	①県外各所から機織りや和服等に係る活動等をされている方々も来館され、文化交流を推進出来た。 ②歴史民俗博物館とのつながりが出来た。 ③佐倉の機織り団体の交流や結束を強める事が出来た。						
課題	①機織り文化をさらに推進し、特に若年層に関心を持ってもらう工夫が必要である。 ②つながりの出来た機関、団体、個人等との交流を継続していく必要がある。 ③施設来館者が、地域周遊等を図れるようなさらなる工夫も併せて必要と考える。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	- 公民館が行う必要があるか。 - 市民や利用者のニーズに合っているか。 - 目的や役割が薄れていないか。 - 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	事業の優先度は高いか。
公平性	B	- 対象者に情報は流れているか。 - 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	- 期待通りの成果が得られているか。 - さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 - 市民の満足度は高いか。
効率性	A	- 事業の効率性はどうか。 - 事業運営に学習者が参画しているか。 - 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 C：課題あり、成果があまりない。 B：課題あり、成果はある程度ある。 D：成果が得られていない。
特記	事業を始めてから30年以上が経過し、地域に定着化している。参加者の満足度も高く、卒業生はその後、教室に関わる事が多い。	

《凡例》 良い ← A B C D → 良くない	《判定例》 A }
-----------------------------	--

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了 ②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他 ③：事業縮小
-------	---	---

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		厳しい状況下で、これだけの活動をされ、市民の皆様にとっても希望の光となったことでしょう。内容の意義深さを保ちながら、感染症対策にも工夫され、大変有意義である。
総合評価	A	

委員②		国立歴史民俗博物館の企画展示に合わせた事業ができたことは、来場者数増加や歴博との連携ができるとともに、和田ふるさと館の展示を発展させられ良かったと思います。機織りの知識がない若年層の関心を高めるためには体験が有効ですが、感染防止のために実施できなかったことは残念です。今後のことも考えて、感染対策を十分行った中でできることを検討していただけると良いと思います。
総合評価	A	

委員③		和田公民館の伝統的成人教育としての歴史と成果が感じられました。
総合評価	A	

委員④		伝統あるはた織りの展示、開催できて良かったと思います。 歴博とのリンクもとても良いと思います。
総合評価	A	

委員⑤		伝統工芸を守り繋ぎながら啓発に努めている。県外からの来場者があり文化交流ができたので20周年記念だけでなく今後も続けてほしい。
総合評価	A	

委員⑥		和田地区の歴史を辿ることで、地域に定着化した工芸のすばらしさを再確認できました。 これからも女性の活躍を支援する展示は必要と思われます。今までの交流を深めつつ若い方にどうアプローチするかが課題ですね。
総合評価	A	

委員⑦		機織りは、和田を語る重要な項目の一つです。「女性活躍社会に向けて」という視点で機織りを捉えた点、新鮮に感じました。明治末期から大正にかけて養蚕が盛んになると、昭和に入り全盛期を迎え、第2次世界大戦直前までは繭を売って現金収入を得るのが主力産業でした。一方で、農家には自家用の機織り機がおかれ木綿で仕事着を、中には繭から生糸を紡いで晴着を織った家庭もあったといいます。約40年間にわたり和田を支えた養蚕の歴史から機織りにスポットを当てたものだけに、常設展示している桑栽培や蚕飼育など関連付けた解説があれば、理解がより深まった気がします。現状の職員体制では容易なことではないと思いますが、当時の農家の暮らしを思い起こせる録画の援用なども工夫されたいかがでしょう。
総合評価	A	

委員⑧		和田ふるさと館歴史民俗資料室開館20周年記念として実施された、和田口伝の機織りの歴史をたどる事で伝統工芸の素晴らしさを認識し、社会における女性の活躍と文化の発展に支援する貴重な伝統工芸と思科されます。また、伝統工芸を未来に継承し、地域づくりと文化交流に期待できます。公民館の事業評価では、地域に定着し、卒業生は、その後も教室に関わる事が多く良い評価のため、今後も事業の継続を期待します。
総合評価	A	

委員⑨		歴博での展示を見せていただいたが、和田地区における手織りの取り組みを多くの人に見ていただき、よい取り組みであった。
総合評価	A	

委員⑩		企画展で機織りで織られたいろいろなデザインの織物を見学しました。和田の機織りの歴史は深く、織物は古くから衣服や敷物などに日用品として幅広く使われてきたとのこと。市内で唯一受けつがれてきた機織りは、佐倉市の財産の一つといえます。貴重な伝統工芸を未来に継承して行くことは重要なことです。
総合評価	A	

委員⑪		地域の特産を知ることは、とても大切であり、成果に充分伝わってきました。こうして得た知見をどのように今後、自分のこととして、活用して行くのか、フォローをしていく事が大事かと考えます。単に見聞した、だけでなく、その知恵や知識を自分から他人へどう活動や活用にそそげるのかのフォローが大切と考えます。
総合評価	B	

委員⑫		(特になし)
総合評価	A	

委員⑬		・佐倉地域の女性史から現在の日本における社会政策でもある gender equality 男女共同参画を捉えるのも面白いと思います。
総合評価	A	

委員⑭		「手織りの仲間さくら」と「和田はたおり保存会」の皆さんの手による口伝集「さくら織り」の展示は見ごたえのあるものでした。国立博物館企画展と関連展示を持てたことも良かったと思います。ただ展示場所が狭かったです。密を避けることを考えれば、常設展の中にコーナーを設けるのではなく、広いロビーを活用してパネル展示をすればゆったりと見学出来たと考えます。また、佐倉在住の伝統工芸の職人の方々との交流を持ち、さくら織りとコラボレーションが出来たらと希望します。
総合評価	B	

委員⑮		○期間限定で展示したものを参観された人数の多さに驚きます。コロナ感染予防をしたなかで実施されてよかったと思います。 △この展示と歴博の「性差の日本史」と整合のとれるものとしたとありますが、この点についての成果をもう少し詳しく知りたい。
総合評価	A	